

## 5. 市民のスポーツ活動とスポーツ意識

藤田 和也

### はじめに

ここ数年、各市は市民の生涯学習の振興と拡充を意図して、市民の学習・文化・スポーツ活動の実態と意識についての調査に取り組んでいる。その報告書を通して、市民のスポーツ活動の様子や意識の実態がいくらかとらえられている。本報告では最近のいくつかの市の報告書にみるスポーツ活動の特徴的な状況をとらえて、後に予定している将来の市民たる大学生のスポーツ体験とスポーツ意識の実態とつなぎながら大学におけるスポーツ教育の課題を考えるための基礎作業としたい。

今回、参考にする報告書は以下のとおりである。

- 寝屋川市教育委員会『社会教育基本計画策定のための市民意識調査報告書』1989. 11
- 郡山市教育委員会『生涯学習基本構想のための基礎調査』1991. 1
- 蕨市教育委員会『蕨市民の生涯学習に関する意識調査報告書』1992. 3
- 鳩ヶ谷市教育委員会『市民のえがく生涯学習——鳩ヶ谷市生涯学習市民意識調査』1993. 6

### 1. 市民の健康・体力不安とスポーツ要求

これらの調査のうちいくつかは、生涯学習へのニーズの根底と見られる生活上の関心事（暮らしの中で気になることや不安なこと）を調べている。その間で最も多くの人々があげた（しかも他の項目に比して群を抜いて高い）のは健康への不安である。それぞれ別個に調査された2市の調査がたまたま同じ設問をしているが、両市民の回答は全く同じと言っていいほど同傾向を示している（図1、2）。

しかも、2番目に多くの市民があげた「老後」（30%前後）よりも2倍を越える（64%余）人々が「健康」をあげており、今日の市民生活の中で健康不安がいかに広がっているかがわかる。

こうした健康不安の蔓延状況を反映して、「健

図1、暮らしの中で気になることや不安なこと（蕨市）

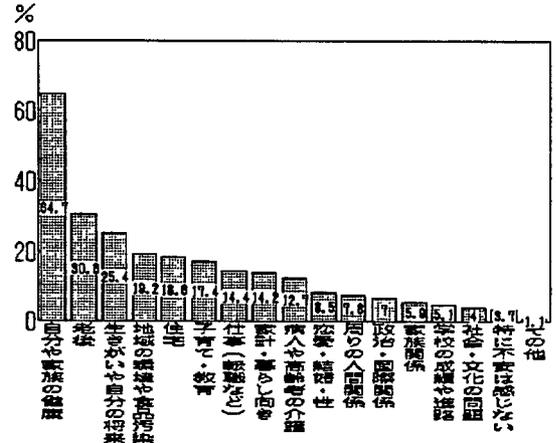
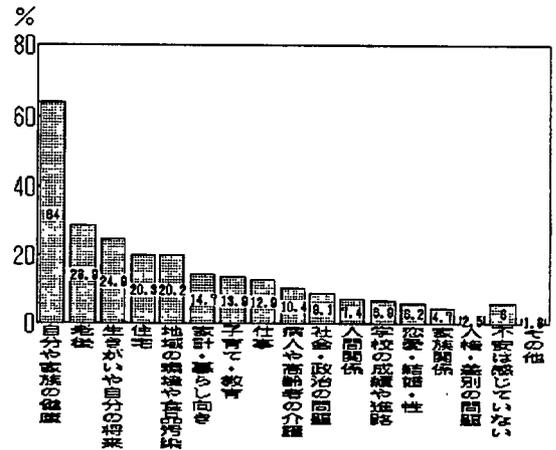
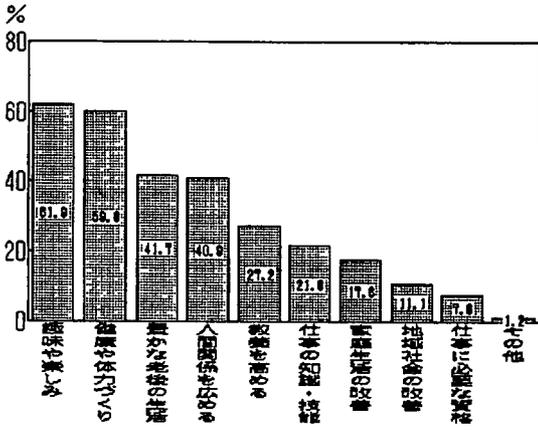


図2、暮らしの中で気になることや不安なこと（鳩ヶ谷市）



康や体力づくり」が学習・文化・スポーツ活動を続ける主要な理由の一つとなっている。寝屋川市の調査に見るように、「趣味や楽しみ」と並んで「健康や体力づくり」が、これらの活動を続ける主要な理由の双璧をなし、後続の「豊かな老後の生活」や「人間関係を広める」といった理由を約20ポイント引き離している（図3）。

図3. 学習・文化・スポーツ活動を続ける理由(瀬屋川市)



こうした傾向は、市民の潜在的なスポーツ要求が高いことにも反映しているとみることができる。前出の蕨、鳩ヶ谷両市の調査では、「今後したいこと」として、いずれも最も多くの市民が「スポーツ・レクリエーション活動」をあげ、鳩ヶ谷市では、次いで「健康づくり」をあげる人々が多い（蕨市では第2グループの20%前後の支持率を占める一群の中にある。図4、5）。

このような一般市民の健康・体力不安は、今日の生活様式（一般的ライフスタイル）や生活諸環境が長く限り解消されないばかりか、いっそう増大していくことが予想され、潜在的・顕在的スポーツ要求はますます増大していくと考えられる。

図4. 今後したいこと(蕨市)

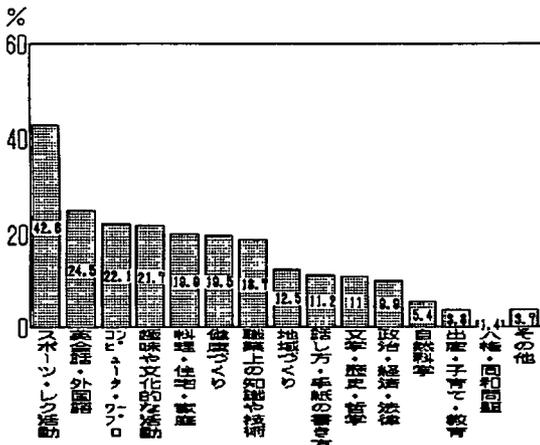
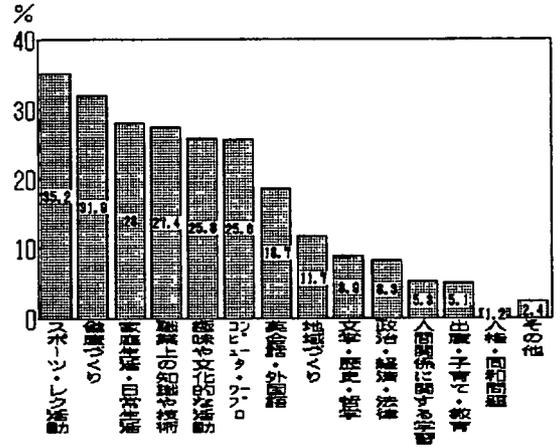
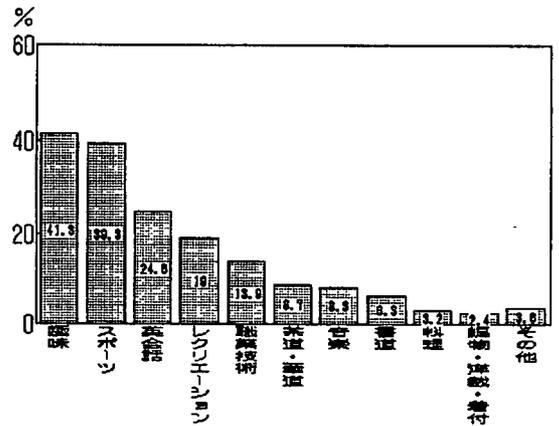


図5. 今後したいこと(鳩ヶ谷市)



次の調査結果は、将来のスポーツ要求の増大を、市民自身が自覚（予想）していることを証明している（図6）。

図6. 将来需要が増大すると考える分野(郡山市)



## 2. 市民の余暇時間とスポーツ活動

市民が余暇に行う学習・文化・スポーツ活動のうち、スポーツ・レクリエーション活動がいずれの市においても最上位を占めており、多くの市民の余暇時間の活用は、主にスポーツ活動によって担われているということが出来る（図7、8）。しかしながら、このような活動状態でも、市民のスポーツ要求を満足させておらず、先に見たように、スポーツ活動への要求を潜在させている（図4、5）。

図7. 学習活動の経験（鳩ヶ谷市）

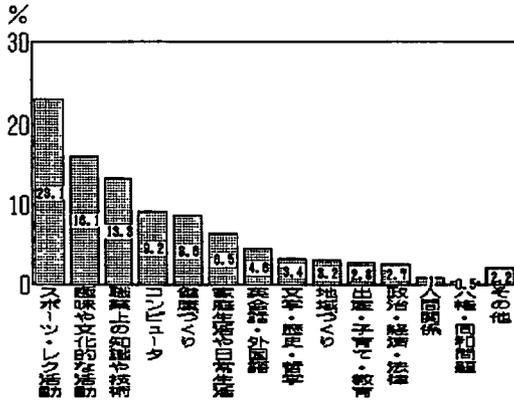
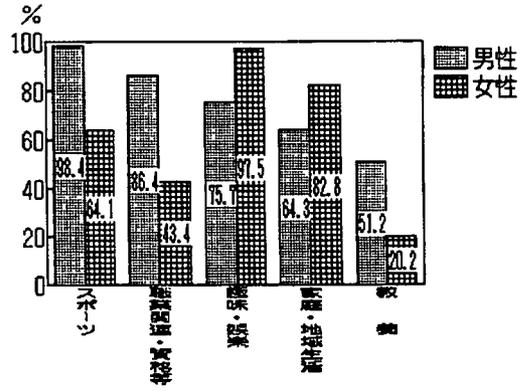


図8. 学習活動の内容（郡山市）



このように、スポーツ活動への要求が高いにもかかわらず、それができないのは、いくつかの調査によると、「忙しくて時間がない」ことが最大の理由となっている。活動に参加しない理由は、「時間がとれない」がいずれの調査においても圧倒的に高い（他の理由の2倍以上の多さを示している。図9、10）。これらのデータは「スポーツを楽しみたいが時間がない」という実態をはからずも浮き彫りにしている。そして、時間がない最大の理由は仕事の忙しさからくるものであることは明らかであろう。したがって、広く潜在するスポーツ要求を顕在化させ、それを活動に結実させるには、仕事に追われた生活時間構造を根本的に変えることが必要である。

図10. 活動上の困難と不参加の理由（鳩ヶ谷市）

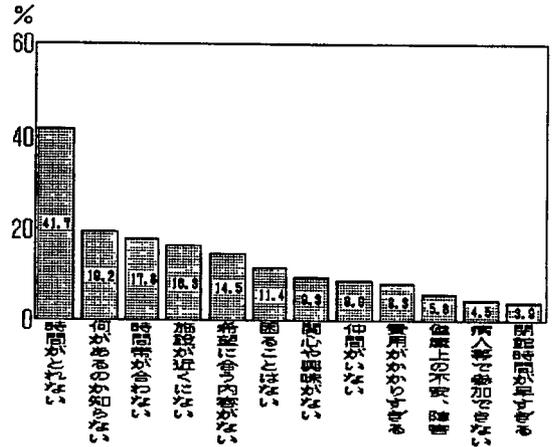
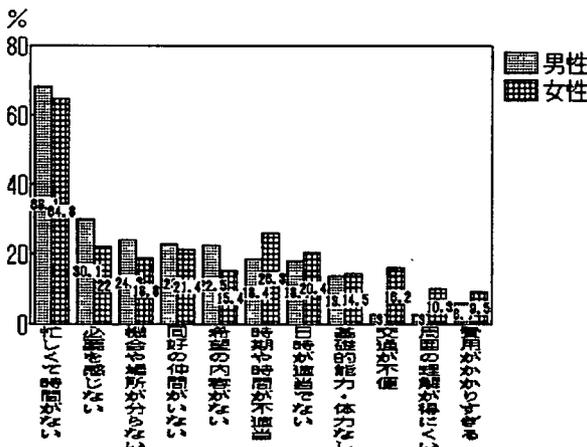


図9. 学習活動への不参加の理由（郡山市）



### 3. 市民のしたいスポーツ

市民がどのようなスポーツをしたいと思っているかを調べた結果をみると、寝屋川市の調査結果から希望の高いもの上位5項目をひろくと次の通りである。

- (男性) ①ハイキング・サイクリング ②ゴルフ ③野球・ソフト ④水泳 ⑤テニス  
 (女性) ①ハイキング・サイクリング ②水泳 ③テニス ④エアロビクス・ジャズダンス ⑤ゴルフ

同じく、蕨市調査では次のような項目があがっている。

- (男性) ①ゴルフ ②登山・つり ③水泳 ④テニス ⑤体操

- (女性) ①水泳 ②体操 ③ゴルフ  
④テニス ⑤社交ダンス

以上の結果から、市民にニーズの高いスポーツ(ハイキング・サイクリングや登山・つりを除く)は、男性ではゴルフ、野球(ソフト)、水泳、女性では水泳、体操、テニスということができ、この5種が今日の人気スポーツということができそうである。

#### 4. 市民スポーツの担い手

市民のスポーツ活動への参加状況を鳩ヶ谷市を例に年代別にみると、若い年代層ほどスポーツ活

動の機会が多く、年代が進むにつれて確実に減少していることがわかる(図11)。蕨市もほぼ同じ傾向を示していることから、この傾向は一般的であるとみてよいであろう。

これを職業別で見ると(図12)、スポーツ活動の機会の多い階層は、公務員、経営・管理者、サラリーマン層と言えそうである。但し、蕨市では、農業従事者のスポーツ活動参加が最も高率で、鳩ヶ谷市とはかなり大きな開きがあり、蕨市の地域スポーツ活動の特徴が出ている(農業従事者の独自の活動がある)のかもかもしれない。

図11. スポーツ活動への年代別参加状況(鳩ヶ谷市)

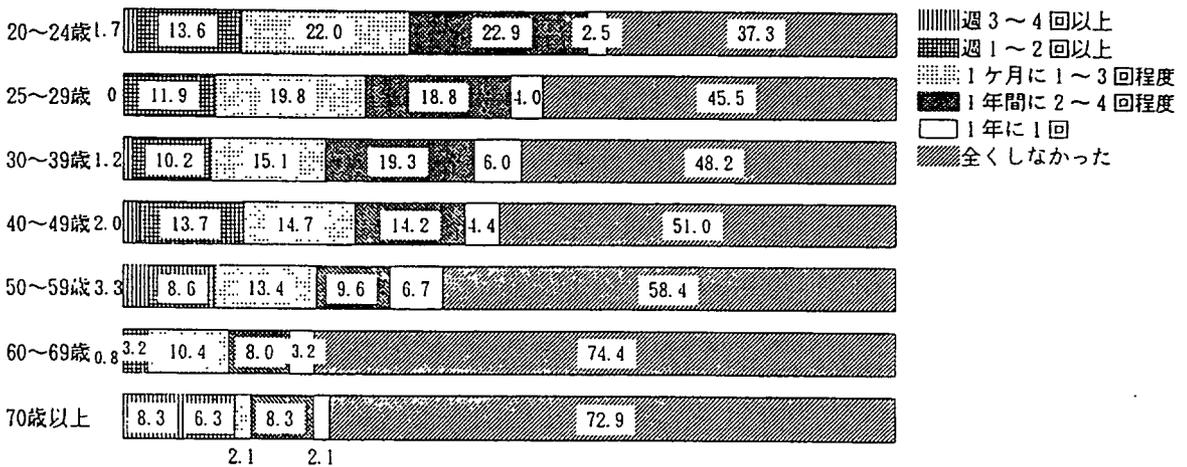
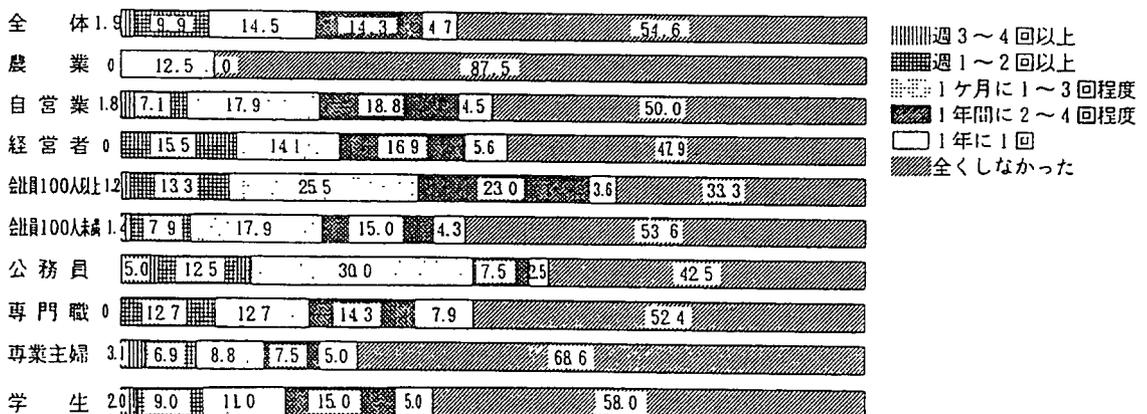


図12. スポーツ活動への職業別参加状況(鳩ヶ谷市)



さらに、郡山市の調査では、最終学歴別に、実際に行っている学習・文化・スポーツ活動の内容や今後学習したい内容を調べている。それによると、「趣味・娯楽活動」と「スポーツ活動」は互いに対照的な傾向を示している。すなわち、趣味・娯楽関連の活動は最終学歴が高くなるほど少なくなっているが、スポーツ活動は、実施状況と学

習要求のいずれも逆に学歴が高くなるにしたがって確実に増えている。しかも、その傾向は男女共通にみられる（図13、14）。学歴が高くなるほどスポーツ要求が高く、また、生活の中にスポーツを取り込む人々が多くなるという傾向は、われわれ大学体育関係者にとって大変興味深い。

図13. 学歴別学習活動への参加状況（郡山市）

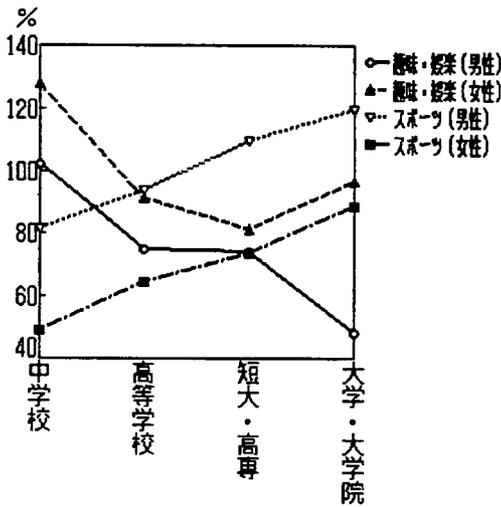
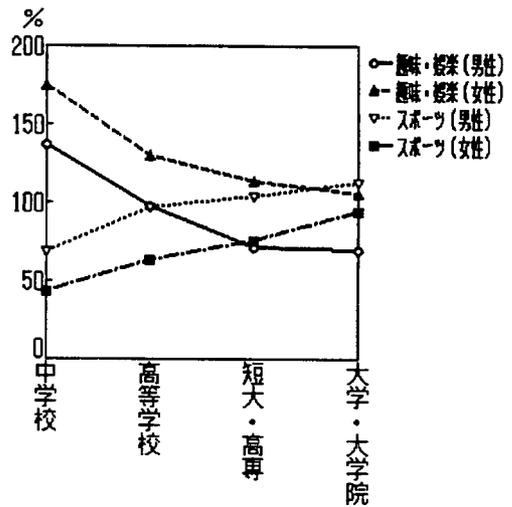


図14. 学歴別学習要求の内容（郡山市）



以上の、年代・職業・学歴別にみた市民のスポーツ活動の特征的傾向は、比較的高学歴で、余暇時間を確保しやすい中流階層（公務員やサラリーマン層）の、特に若年層市民がその主要な担い手であると言えるようである。この傾向が今日の本

国において一般的であるとするならば、大学における学生たちのスポーツ体験が将来の市民のスポーツ活動の内実を大きく左右すると見なければならず、この傾向を十分にふまえて大学体育のあり方（大学体育を通して学生たちにいかなる質のスポーツ活動体験を得させ、スポーツ文化の享受の方法やスポーツ認識の形成を図るか）を考える必要がある。